

2025 年度(令和 7 年度)

事業計画・収支予算書

(第 15 事業年度)

自 2025 年 1 月 1 日

至 2025 年 12 月 31 日

公益社団法人企業メセナ協議会

< 目次 >

連携・協業など創意工夫で進化する企業のメセナ活動を発信.....	2
重点目標と施策.....	2
I.組織運営	4
II.事業計画	
調査・研究.....	5
認定・顕彰.....	8
会員ネットワーク セミナー.....	11
相談・協力・コンサルティング.....	13
助成.....	14
広報.....	17
III.年間スケジュール	19
IV.収支予算	21

連携・協業など創意工夫で進化する企業のメセナ活動を発信 ～ 社会・経済・文化を“つなぐメセナ”～

昨年、元日の能登半島地震、翌日の羽田空港の航空機衝突炎上と、大きな災害、事故で始まった年であった。能登半島は、10 月にも豪雨災害に見舞われ、復興に向かう人々に更なる打撃となった。また、ロシアによるウクライナ侵攻が続き、パレスチナ、イスラエルでの紛争の激化などによる不安定な世界的社会情勢は、経済にも大きな影響を与えている。このような状況の中で、平和で心豊かなより良い社会であることは、今まで以上に重要性を増している。

昨年、「芸術文化とは何か」「企業メセナとは何か」「協議会は何に取り組んでいるのか」について改めて議論し、新たなメッセージを発信した。企業メセナは、純粋な芸術文化支援はもとより、教育、地域、福祉、環境などにおける社会課題の解決に向けた企業活動の一つであり、社会への投資につながる活動である。本年も芸術文化を通じた心豊かでより良い社会づくりを進めている企業のメセナ活動を今まで以上に発信するとともに、企業間の連携や、様々な協業などの姿を広く発信し、「社会・経済・文化をつなぐメセナ」を顕在化することにより、企業のメセナ活動の拡がりを促していく。

また、企業間の連携や、切磋琢磨する交流の場の提供などを積極的に発信することによって、会員企業の維持、獲得を引き続き行い、協議会の基盤強化に努める。

■重点目標と施策

1. 企業メセナの意義と価値そして連携・協業など多様な活動の発信の更なる強化

芸術文化を通じて社会の基盤づくりに貢献し、社会課題に取り組む企業メセナの社会的意義、そしてそれを実施する様々な姿を今迄以上に発信し、活動のさらなる活性化を図る。その観点から、事業間での情報連携促進、各事業の実施方法の見直し、精査・改善を行う。

① 調査・研究

企業メセナの現状と過去からの変化、今後の可能性などを調査・分析し、それを発信することによって企業メセナの多様な価値を顕在化させ、今後の企業メセナ推進に役立てることができるよう事業を推進していく。

- ・メセナの定義をより広くとらえ、メセナ活動であることを認識していない企業などにもアプローチし、企業のメセナ活動の裾野を拡げていく。
- ・他の事業との情報共有を進め、より実態に近いデータが得られるよう、回答数増加に努める。
- ・回答のしやすさを含め、様々な視点から調査項目や回答フォームの見直しなどを行い、より多くの回答が得られるよう改善を行う。
- ・調査研究部会の運営を見直し、分析精度の向上と報告書の充実を図る。
- ・メセナアソシエイト制度により、企業メセナを理解し、客観的な視点で深く掘り下げ、発信することができる若手研究者、芸術文化関係者などの人材育成を図る。研究結

果の有効な発信方法を検討する。

- ・協議会内・外で活用しやすいライブラリーの整理と運用について、昨年検討した内容を着実に実行し、メセナに関する研究に貢献する。

② 認定・顕彰

認定(This is MECENAT)

引き続き活動の掘りおこしを強化し、TIM の認知度向上を目指す。

- ・調査事業など協議会内の連携を着実に実施し、全国各地で行われている多くの企業メセナの掘りおこしを進め、認定につなげ、より多くの企業が取り組む流れをつくる。
- ・制度開始から 10 年以上経過し、認定された活動が 1,500 活動を超えたことを踏まえ、認定活動について、様々な観点から分析し、発信する。
- ・認定のメリットでもある広報を強化し、活動の顕在化に努める。

顕彰(アワード)

受賞活動を通して、社会の基盤を支えながら時代の変化を反映し、社会課題の解決にも貢献している企業メセナを発信する。

- ・昨年実施した賞名変更を踏まえ、審査会の運営なども含め改善すべき点を検討し、より受賞活動の社会的意義を理解しやすく発信できるよう、工夫・改善を行う。
- ・認定顕彰部会での意見を収集し、中長期的なアワードのあり方を検討する。

③ 助成事業

協議会ならではの助成制度のメリット、利用方法をわかりやすく発信し、利用者増を図る。

- ・活動者、寄付者それぞれの立場において制度理解を促進できるよう、ホームページやチラシなどの説明資料を見直し、新たな活動者、新たな寄付者の制度活用につなげる。また、内閣府(文部科学省との共同要望)の令和 7 年度税制改正要望において、特定公益増進法人等への法人寄付に係る特別損金算入限度額の拡充があげられており、その動向を注視し、活動者がより寄付を集めやすくなるよう情報提供などの支援を充実させる。
- ・認定・採択された活動が、この制度のメリットを最大限に活用できるよう、認定・採択後の伴走を強化する。
- ・「Arts Fund」における寄付者ファンド紹介のための資料作成や会員企業への助成活動の周知など、制度の利用促進を図る。

④ 広報

メセナ及び芸術文化振興に関するさまざまな情報を収集し、SNS も活用しながら国内外に広く発信することで、協議会のプレゼンス向上とメセナ活動の社会的意義の理解促進を図る。

- ・情報の収集方法の見直しと速やかな共有、その効果的発信を意識し、広報力強化につなげる。
- ・メセナライター制度により、新鮮な視点で企業のメセナ活動を発信するとともに、企業メ

- セナの現場をより深く理解し発信する人材の育成・拡大に努める。
- ・メディアとの関係構築の方策を検討し実行していく。

⑤ コーディネート、コンサルティング

企業をはじめ芸術文化振興にかかわる国内外機関と積極的に交流を進め、メセナの専門機関として、さまざまな相談、協力の要望に応え、幅広い視点からのコーディネート、コンサルティングを実践する。

2. プラットフォーム機能の充実

メセナ専門の中間支援組織として、企業や企業財団、市民や NPO 組織、芸術文化にかかわる人、団体、組織をつなぐプラットフォームであることを認識し、社会・経済・文化をつなぐメセナの意義や価値を発信し、芸術文化振興に貢献する。

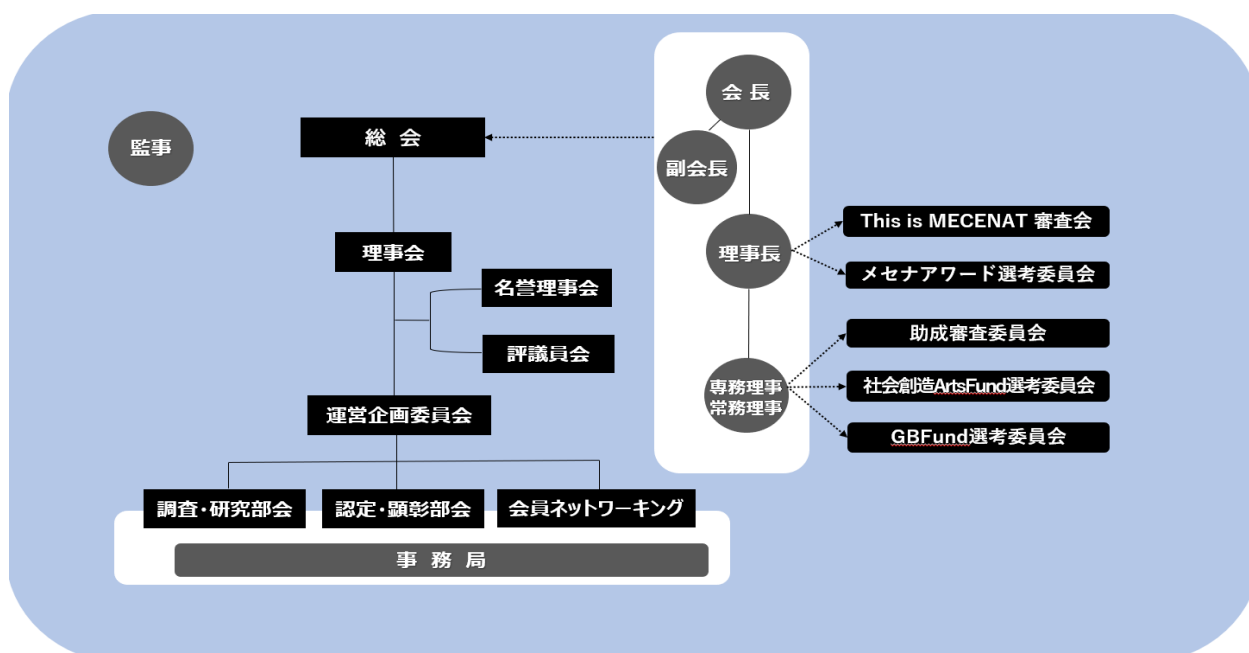
- ・会員とのコミュニケーションを強化し、オンラインなども活用しながら、必要とされる場、情報の提供を行う。
- ・企業メセナに関する唯一の中間支援組織として、大学や芸術文化関連団体などとの交流・連携を深め、セミナー、視察などを通じて芸術文化振興の促進に寄与する。
- ・全国メセナネットワークの幹事として、総会などでの情報交換や議論を通じて交流を深めながら、全国各地での活動の活性化に貢献する。

3. 財務基盤の強化

会員の維持・新規獲得だけでなく、会費以外の事業収入の増収及び経費の見直しを検討し、安定的な財務基盤の強化を行い、公益事業の更なる拡充を目指す。

また、本年は公益法人会計基準の改正が予定されており、その内容を理解し、着実な対応を実施する。

I. 組織運営



1. 総会
会員が一堂に会し協議会の事業・運営について合意形成を図るとともに、会員相互に交流する機会と捉えて、芸術文化振興に関する情報提供と、メセナ推進についての意見交換ができる場となるよう努める。[2025 年 3 月開催]
2. 理事会
協議会の事業推進と組織拡大に努める。[通常理事会:2 月、12 月／ほか臨時理事会]
3. 役員会
理事を中心に、名誉理事・評議員・顧問を含めた役員合同会議を行うなど、協議会運営について幅広く指導を仰ぎ、あわせて情報の共有を図る機会とする。[年 1 回程度開催]
4. 運営企画委員会
各部会・ワーキンググループ・プロジェクトチームの事業展開について共有・協議し、事務局とともに理事会への提案を行うなど、芸術文化振興に関する諸課題について実質的な議論を行う。[年 3～4 回程度開催]
5. 部会・ワーキンググループ、プロジェクトチーム
部会・ワーキンググループは各事業の方向性や制度設計等について議論し、事務局の実務の遂行に対してアドバイスを行う。
 - 調査研究部会:メセナ活動実態調査および事例研究等の推進
 - 認定顕彰部会:認定制度「This is MECENAT」顕彰事業「メセナアワード」の推進
 - 会員ネットワーキンググループ:会員相互のネットワーク形成に資する活動を展開

Ⅱ. 事業計画

【調査・研究】

■ 目 的

日本の企業メセナの現状と可能性について調査・分析。日本のメセナ活動の状況・トレンドを理解し、またメセナ活動それぞれの固有の価値を抽出する。企業メセナの多様な価値を顕在化するとともに、今後の企業メセナ推進の一助となるよう、情報の整備を行う。

■ 事業内容

1. メセナ活動実態調査

全国のメセナに取り組む企業・企業財団を対象とする定期調査。前年度の各社・団体の取り組み実態について、例年 7～8 月、企業約 2,100 社・企業財団約 300 団体へアンケート

票を配布。秋頃に事務局での集計を経て、調査研究部会で議論を行い、翌春頃に集計データから見える最新トレンドを発表する(報告書『Mecenat Report』発行、報告会の実施)。調査結果は国内におけるメセナに関する唯一の統計調査として、企業、企業財団、国、自治体、文化機関等で活用されている。

2. メセナに関する事例研究(メセナアソシエイト・協議会アソシエイト)

2014 年度より開始したメセナアソシエイトは、メセナ研究者育成を目的に毎年公募で募った若手外部研究員と協働し、「メセナ活動実態調査」や協議会把握データの活用、メセナ企業等へのヒアリング調査により、専門性を活かしたメセナの価値を掘り下げる事例研究を行い、結果を協議会 Web サイト上で公開する。

2020 年度より開始した協議会アソシエイトは、芸術文化分野の若手研究者育成や最新情報の入手を目的に、協議会が設定するテーマに合わせて調査レポートを作成し、Web サイト上で公開する。

3. メセナに関する国際調査

国外における企業メセナや中間支援組織の活動について、基礎データを収集し、日本との比較を行い、日本の企業メセナの位置づけ、国際的なトレンド・兆候について情報収集を行う(対象国:アメリカ・イギリス・フランス・オーストラリア等)。

4. 情報ライブラリーの運営

協議会発行物やメセナ・文化政策・アートマネジメント等に関する書籍、企業・企業財団のメセナ資料の管理、利用者対応を行う。

■課 題

1. 「メセナ活動実態調査」回答データの量的・質的向上
2. 「メセナ活動実態調査」分析精度の向上と調査報告書の充実
3. 調査結果の活用機会の拡大
4. アソシエイト制度活用による企業メセナ活動の発信および活性化の促進
5. 国外における企業メセナ関連情報の収集強化
6. 情報ライブラリーの蔵書や資料の整理および活用方法の改善

■重点施策

1. 「メセナ活動実態調査」について、新規の企業・財団の掘り起こし。回答しやすい調査設計と回答動機付け強化

- ① 未回答企業および財団の掘りおこしのため一定数の郵送での回答依頼は継続するとともに、TIM やクリッピング、ネットなどで収集する情報にもとづいて新規の回答依頼企業および財団のリストアップとアプローチを強化する。また既存の企業および財団についても情報更新を進める。
- ② 企業・財団が回答しやすく、協議会としても有効な回答を収集できるよう調査設計を工夫するとともに、3.③で述べる調査結果のフィードバック機会の充実により、回答動機付けを強化し、回答精度と回答率の向上を図る。
- ③ 「メセナ活動実態調査」システムの利用状況により、必要に応じ機能向上を行うとともに、実態調査全体の効率化を図る。

2. 調査部会の議論の深化とそれにもとづく報告書内容の充実

- ① 調査部会のメンバー拡充を検討し、部会での議論の深化を図る。
- ② 部会での議論も受けて、報告書を作成することで、内容の充実を図り、回答企業と会員企業のメセナ活動推進に資する結果の提示を目指す。

3. 回答企業および会員企業に対する「メセナ活動実態調査」結果のフィードバック。および「メセナ活動実態調査」結果をきっかけとする企業メセナへの関心度向上への取り組み

- ① 調査報告書の送付先を引き続き公益財団、芸術団体、大学、経済団体を含む研究機関などへも広げ、メセナ活動の意義や実施団体の実態などについてより広く周知する。
- ② 調査報告書送付時のアンケートを継続して実施し、活用状況や要望を把握するように努める。引き続きメールでのアンケート送付も行う。また、調査結果に基づき、必要に応じて回答企業へヒアリングを行う。
- ③ 年 1 回程度、調査研究部会と連動した報告会を実施。会員企業に加え、非会員の回答企業も調査報告会へのオンライン参加を無料とし、結果のフィードバック機会の充実を図る。また、報告会は、前年度「メセナ活動実態調査」の回答集計・分析と連動したテーマ設定を行い、報告会後半では、会員企業や回答企業に有益なディスカッションになるよう、テーマに沿ったゲストの招聘などを企画する。

4. アソシエイト制度の充実と活動の強化

- ① 本年度も様々な立場から、メセナ活動の今日的課題をテーマに事例研究を行い、研究者側も企業側もともに得られるものがあるよう、密度の高い協働研究を目指す。

- ② 引き続き、レポートの Web サイトでの公開を行い、会員企業や芸術文化関係者などとの成果物の共有などを通じて、メセナ活動活性化へ貢献するための働きかけの強化を図る。
 - ③ アソシエイト制度を活用し、若手研究者育成に努めるとともに、任期終了後のアソシエイト向けに協議会からのお知らせなどの情報配信をすることで、協議会との繋がり継続と若い世代のメセナ活動への関心の維持・向上を図る。
5. 国外における企業メセナや中間支援組織の基礎データの収集と Web サイトでの公開
- 諸外国の企業メセナや中間支援組織の活動について、基礎データ(各国の調査レポート、顕彰など)を Web 調査によって収集し、Web サイト(日本語)で最新情報や日本との比較情報を、また英語 Web サイトでアソシエイトレポートの英訳などを公開し、日本のメセナ活動の情報発信を強化する。また英語 Web サイトの UI を改善し、英訳レポートへのリーチを改善する。
6. 情報ライブラリー蔵書整理、Web ライブラリーと連動した活用への改善
- 情報ライブラリーについて、昨年度作成したフローに基づき第1ステップ(企業・財団本を並べて配架する状態)を完了する。さらに協議会全体で話し合い、あらたな管理ルールを策定し、その方針に基づき蔵書整理を行う。企業の社会貢献活動担当者や学生など多くの方が芸術文化の中における企業メセナについて理解を深め、活用できる場にする。

【認定・顕彰】

■ 目的

メセナの姿およびメセナが心豊かなより良い社会づくりの観点で果たしている役割を、活動事例から明らかにする。認定制度で多様なメセナ活動を幅広く顕在化させると共に、顕彰によりメセナの意義と重要性を広く社会に周知する。これらの制度により、メセナに取り組む企業・団体を奨励し、一層の活動の充実に寄与する。

■ 事業内容

1. 認定事業「This is MECENAT」

多様な企業のメセナ活動を可視化し、裾野を拡げることが目的に 2014 年に設立した認定制度。「これぞメセナ」と認定された活動には、シンボルとして「メセナマーク」を年度毎に発行し、専用ウェブサイトにて公開・蓄積するほか、顕彰事業「メセナアワード」と連動して運営する。

2. 顕彰事業「メセナアワード」

1991年に創設した、優れたメセナ活動を顕彰する事業。「メセナアワード 2015」より、「This is MECENAT」と連動して運営。認定年度の翌年に、特に優れた活動(メセナ大賞、優秀賞)を選考し、受賞活動に対して表彰状とトロフィーを贈呈する。[文化庁後援]

※This is MECENAT およびメセナアワードの審査・選考は、協議会が委嘱した外部の有識者によって行われる。

■ 課 題

「This is MECENAT」:掘り起こしの拡大、地方企業の登録促進、広報の充実、アーカイブデータの整理・分析・活用による認定メリットの強化。

「メセナアワード」:選考会運営の工夫、受賞活動の多角的な発信、企業メセナの意義を強くアピール。

■ 重点施策

1. 「This is MECENAT 2025」

- ① 事業間の情報活用と社会・経済・文化の動向を掘り起こしを拡大、アプローチ方法の検討

制度開始から10年が経ち、新規活動が毎年着実に増えており、継続登録も定着してきている。引き続きライブラリーに蓄積された企業メセナの活動資料、クリッピング記事の活用とともに、調査研究事業とデータベースを共有のうえ、行政をはじめ、経済団体、芸術・文化団体、教育機関、NPOなどの動向を把握しながら掘り起こしをさらに広げ、戦略的に呼びかけを行う。一方で、企業側においてはコロナ禍を機に新規の問合せが受け付けられにくい点が課題であり、認定・顕彰部会をはじめ会員企業のご意見を聞きながら、新たなアプローチ方法も検討する。

- ② 地方創生に取り組む地域へ広く登録を働きかけ、メセナ活動の社会的意義をアピール

首都圏はもとより、過去に前例のなかった都道府県において新たに登録された活動もあり、地域への働きかけが少しずつ結果につながっている。今後もSDGs 未来都市などを対象に、メセナ活動が社会課題の解決に向けた企業活動の一つである点をアピールしながら、地方創生に取り組む自治体や中小企業、全国に展開するアーツカウンシルなど、多方面に応募・推薦を依頼する。

③ 多様な媒体と認定企業との連携による広報の相乗効果を図り、認定メリットを強化

TIM 認定活動には、プレスリリースの地方紙・業界紙への個別配信、随時「アート&カルチャー」への掲載、SNS・メルマガ配信、「メセナライター」による取材レポートなど、多様な媒体をより充実させ認定メリットを強化し、登録フォローに努める。また、認定企業・団体からのメディア情報の共有やリリース掲載も年々増えており、引き続き認定各社に広報発信を働きかけ、認定活動と TIM の認知度拡大の相乗効果を図る。広報事業と連携し、活動担当者とのコミュニケーション促進と企業メセナの最新情報の発信に注力する。

④ 活動担当者へのフォローアップ、蓄積データの整理・分析・活用による TIM の価値向上

認定後も TIM 担当者間の情報交換・ネットワークの場を設けるなど、活動担当者を丁寧にフォローアップし情報収集するとともに、メセナ活動のさらなる活性化を目指す。また、TIM サイト上では活動地域やジャンル、開始年などで認定活動を分類しているが、業界・社会貢献分野・活動規模など、より広い観点でのデータ整理・分析も検討し、今後活用できるように努める。TIM の価値を一層高め、登録・認定の意義とともに協議会への関心や理解促進につなげる。

2. 「メセナアワード 2025」

① 賞名変更に伴う運営面の工夫・改善、中長期的なアワードのあり方を検討

2024 年は継続性と革新性をもって芸術文化の裾野を拡げ、創造的な地域や社会に貢献する取り組みが受賞につながった。優秀賞については活動の社会貢献がより伝わるよう、賞名に代わり、特に評価の対象となった点を選考委員に考案いただいた。引き続き認定・顕彰部会や選考委員のご意見を聞きながら、運営面の工夫・改善とともに中長期的なアワードのあり方を検討し、時代を切り拓く多様なメセナ活動のアピールにつなげる。

② 受賞活動の多角的な発信、全国へ広くアワードを周知

受賞活動について、10・11 月にプレスリリースを配信し、11 月下旬に贈呈式を行う。式典では受賞各社・団体の経営層に登壇していただけるよう働きかけ、会員企業はじめ協議会関係者を招待し、活動担当者間の交流の場をもつ。協議会ウェブや TIM 専用サイト、SNS などで多角的に発信するほか、開催後は贈呈式レポートのウェブ掲載やアーカイブ動画の公開など、遠方の企業やプレスなどに向けて広くアワードの周知に努める。

③ 他事業との連携による企業メセナおよび協議会のプレゼンス向上

セミナー・ネットワーキング事業と連携し、アワード受賞や TIM 認定企業・団体には、企業メセナの好事例として視察・セミナーなどの開催を依頼し、選考委員には講演会の登壇ゲストとして、企業メセナの知見を深める機会に協力いただくよう検討する。これからの社会における芸術文化やメセナの意義を伝え、企業メセナおよび協議会への理解とプレゼンスの向上につなげる。



This is MECENAT 2025／メセナアワード 2025 ロゴ



メセナアワード 2023 贈呈式

〔This is MECENAT／メセナアワード実施要領〕

- ・This is MECENAT 2025 募集時期：2025 年 3 月～5 月
- ・メセナアワード 2025 エントリー〆切：2025 年 5 月末
- ・審査委員長：仲町啓子（実践女子大学名誉教授／秋田県立近代美術館特任館長）
- ・審査委員：佐倉 統（東京大学大学院情報学環 教授／理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー）
八反田 弘（東京藝術大学名誉教授）
松尾卓哉（(株)17 クリエイティブディレクター／CM プランナー／コピーライター）
山口 周（独立研究者、作家、パブリックスピーカー）
夏坂真澄（企業メセナ協議会理事長）
ほか 1 名を予定
- ・メセナアワード 2025 贈呈式：2025 年 11 月下旬予定

【会員ネットワーク | セミナー】

■ 目 的

会員相互の情報交換と交流の促進、研鑽の場を提供し、企業とアート NPO・市民団体・文化政策に携わる国や自治体・教育機関等組織をつなぐ活動を行う。「メセナ」に関する中間支援団体として、プラットフォームづくりを通じ、相互交流の促進を目指す。

■事業内容

1. 会員ネットワーキング活動の実施

新入会員の顔合わせの機会として「新入会員ファーストミーティング」を実施するほか、会員の関心が高いメセナの現場を視察し研鑽を深める「会員ネットワーク勉強会」などにより、会員各社・文化関係者の交流・ネットワークづくりを促進する。

2. セミナー、講演会等の企画・実施

調査・研究、認定・顕彰、助成など基幹事業と連携した各種セミナーのほか、メセナ・文化政策等に関するセミナー、講演会を企画・実施する。

3. 全国メセナネットワークの事務局を担う（2019/4～）

1996年に発足した国内各地のメセナ関連団体相互の交流、情報交換、協力を図り、各団体それぞれのメセナ活動を促進し、地域の文化振興に寄与する事を目的につくられた会。（現在 11 団体）全国メセナネットワークの幹事として事務局を担うことにより、オンラインも活用しながら総会の実施、会員交流会の企画運営、会計処理を行い、地域の文化振興に貢献する。

■課 題

1. 協議会会員をはじめ全国の様々な企業・団体・文化関係者に向けた交流機会の設定、連携による活性化
2. 事業間での情報共有、時代に即したセミナーテーマ・ゲスト・事例を選定
3. オンラインによる多角的な発信・会員サービスの充実

■重点施策

1. タイムリーで多様なコミュニケーションの場、様々な会員が参加しやすいイベントの企画

「新入会員ファーストミーティング」は、3年ぶりに対面で開催し、会員ネットワーキンググループ幹事のほか、運営企画委員、部会にも呼びかけ、ミーティングとギャラリー見学を実施し交流を深めた。また、新規にオープンした芸術文化施設への勉強会を企画し、今の企業メセナの現場を視察することが出来た。今後も正・準・個人会員が相互交流しやすい環境下でのイベントを実施し、首都圏以外の会員も参加できるように地方へのフィールド視察や、地方会員のネットワークづくりの場も検討する。引き続き、タイムリーで多様なテーマに即した企画を検討し、できるだけ多くの会員への情報提供やコミュニケーションを深められる場づくりを目指す。

2. 協議会事業の知見を活かし、社会のニーズを反映したセミナーを開催

- ① 調査研究事業との連携セミナー・報告会

- ② TIM 認定・アワード受賞企業トップ、審査委員、文化人、研究者等による講演会
- ③ 助成事業との連携セミナー（寄付、税制、法律、ファンドレイジング、フィランソロピー等）
- ④ 文化政策系セミナー（国内および海外における文化政策の最新動向）

などのテーマを柱に、各事業の知見を活かしたセミナーを引き続き開催する。また地域企業や、環境・福祉・教育など社会課題の解決に向けた先進事例の紹介、アートと企業経営やこれからの企業メセナのあり方を考える企画なども検討する。定期的に局内で企画会議をもち、事業間で情報共有のうえ、社会のニーズを反映したテーマ・ゲストを選定する。

3. 会員はじめ他団体との協働・連携を促進し、セミナー・イベントを効果的に推進

セミナーは会員との共催も検討し、広報発信や運営体制を強化しながら、より効果的に推進していく。そのほか大学や芸術文化関連団体とも連携を深め、企業メセナの普及促進とともに、芸術文化振興のさらなる発展や人材育成にも資する質の高いセミナーを行う。また、昨年より会員ネットワーキンググループの幹事リーダーが交代し、体制が変更となった。定期ミーティングをはじめ、幹事メンバー間の意見交換の機会をつくり連携を促進するとともに、イベントやセミナーの出席頻度の高い会員にも参画を呼びかけるなど、活性化を図る。

4. オンラインを活用し広く多角的に発信・会員サービスの向上

セミナーやイベントはオンラインを併用し、広く企業メセナの周知に努めるとともに、アーカイブ動画としても蓄積する。メセナライターによる開催報告のレポートも引き続きウェブサイトで発信し、得られた知見・事例等を積極的に紹介していく。あわせて、オンライン上で会員限定のコンテンツを設けるなど、会員のメセナ活動の充実につなげる方策についても検討する。

5. 全国メセナネットワークの交流・活性化

地域の文化振興に寄与することを目的につくられた全国メセナネットワークであること踏まえ、国内各地にある 11 団体との交流や情報交換を図る。幹事として現地の要望をヒアリングしながら、今後の課題や組織のあり方を議論したうえで、活動の活性化を目指す。

【相談・協力 | コンサルティング】

■ 目 的

コーディネート、コンサルティング機能を強化し、企業や芸術文化に関わる諸団体の活動に寄与し、活発化させる。アート NPO や市民団体、文化政策に携わる国や自治体、教育機関等からの相談・協力依頼に積極的に対応し、セクターを越えた文化振興プラットフォームとしての役割を果たす。

■事業内容

1. 企業、文化団体やアート NPO などからの相談対応、コンサルティング業務

「メセナ相談日」等の実施により、会員をはじめ企業・企業財団、民間の芸術文化団体、自治体等からの相談に対応する。

2. 企業・自治体等からの文化事業の受託・実施

3. 諸団体からの講演依頼、評価委員等の受託

自治体、大学、文化団体等からの講演、審議委員等の依頼に対応する。

■課 題

コーディネート、コンサルティングにおける、事務局内リソースの活用と、提案力の向上

■重点施策

1. メセナの専門機関として、企業を中心に幅広く文化セクターなどの相談に応じる

30 年以上にわたり蓄積してきた協議会のノウハウ・ネットワークを活用し、メセナの専門機関として、企業を中心に幅広い相談に応じるとともに、文化団体やアート NPO、企業との連携を望む自治体等をつなぎ、パートナーシップによる芸術文化振興を促進する。

2. 事務局内の柔軟な体制による、提案型コンサルティングの実施

各相談案件のテーマに最適なチームをつくり、各事業のノウハウ・知見を活かした提案を行う。

【助 成】

■目 的

芸術文化活動に対する企業・個人からの寄付を促し、特定公益増進法人の特性(寄付金の税制優遇の適用)を活かした制度運用を行い、寄付者と活動者との間をつなぐ役割を担うことで、芸術文化の振興を図る。

■事業内容

1. 助成認定制度

特定公益増進法人の特性を活かした制度運用により、支援者は寄付をしやすく、活動者は寄付を集めやすくすることで、芸術文化活動への民間寄付を税制面から促進する。芸術文化団体(活動者)の申請を受けて、審査および活動の認定を行う。対象を活動規模 1,000 万以下の活動とし、制度を利用して集める寄付金が 500 万円までの比較的小規模または初めて寄付集めを実施する活動などを積極的に支援する。

2. 社会創造アーツファンド[略称:Arts Fund]

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機に、①地域文化振興及び芸術文化による地域創造、②芸術文化を通じた国際交流及び日本文化の国際発信、③未来の日本の芸術文化振興に資する活動など、芸術文化振興に資する活動を対象に、寄付を芸術文化振興を通じた心豊かなよりよい社会につながる創造性あふれる未来への投資として、特定公益増進法人の特性を活かした制度運用により促進する枠組みをつくり、2014 年に設立。その後、2023 年に「社会創造アーツファンド」と改称し、寄付者の意向に沿った支援プログラムのコーディネートおよびファンドの運営を行う。

なお、活動者が寄付を集めるために利用する場合も、助成認定制度と同様に、活動の申請を受け付け、選考および活動の採択を行う。

【実施要領】(助成認定制度／社会創造アーツファンド 同スケジュール)

- ・ 申請受付 年 4 回(1/20・4/20・7/20・10/20)
- ・ 審査・選考委員会 協議会が委嘱する審査・選考委員長および各ジャンルの審査・選考委員 6 名、計 7 名。年 4 回実施

3. 芸術・文化による災害復興支援ファンド[GBFund]

東日本大震災の発災をきっかけに、芸術文化による復興ファンドを設立。その後、支援対象の災害を広げ、2020 年度は新型コロナウイルス感染症を対象災害として認定した。趣旨に賛同した寄付者の方とともに、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動支援を行う。2024 年に元旦に発災した令和 6 年能登半島地震を対象災害として認定し、寄付金の募集を開始。それにともない本年は活動を募集し、寄付金の再分配による助成を行う。また、当初、集まった寄付金を再分配するまでの緊急対応として、被災した方や被災地を応援したい方など、活動者自ら寄付を集める活動を募集。被災者・被災地の復興に資する芸術文化活動を個別に認定し、助成認定制度同様に認定活動への寄付を税制面およびかるふあんウェブサイトのクラウドファンディング機能の利用などで促進し、より多くの支援ができるよう構築したスキームを引き続き活用していく。

〔認定災害〕 東日本大震災/熊本・大分地震/平成 30 年 7 月豪雨/

新型コロナウイルス感染症/令和 6 年能登半島地震

4. 助成制度利用促進

毎月 1 回、助成制度利用を検討している団体を対象に助成相談日を設け、個別相談に対応している。対面またはオンラインで全国からの相談に対応し、制度利用促進を図る。

■課 題

- ① 助成制度の制度特徴理解の促進
- ② 芸術文化団体への助成制度利用の普及
- ③ 芸術文化活動者の制度利用の利便性向上
- ④ 助成事業の「かるふあん！」サイトの見直し

■重点施策

1. 助成認定制度の利用促進

特定公益増進法人である協議会を通じた寄付は、公益的な芸術文化活動への寄付であることから、寄付者が税制優遇を受けることができるというメリットもあり、一定の理解を得て、継続的に利用している芸術文化活動者が多い。その一方で、初めて利用しようとする活動者にとっては、制度理解が難しいこともあり、新規利用団体の数は多くないのが現状である。さらに、認定された後、有効活用できていない団体も少なくない。制度の特徴の理解を促進し、より多くの活動者の利用を目指し、利用促進計画案を作成し、実施していく。「芸術文化活動者」、「寄付者」それぞれの利便性を高め、わかりやすい説明を心がけることによって、利用促進を図る。

(1) ツールの充実

制度の理解促進のため、紹介ツールの充実を図る。事業パンフレットの作成を検討し、説明資料の見直しを実施する。

かるふあん！サイト(制度説明)の見直しを実施する。

(2) 新規に認定・採択された活動者へのフォローの実施

認定・採択後の手続きやかるふあん！サイトのクラウドファンディング機能の有効な利用 方法など、資料を充実させ手厚いフォローを心がけ、利用の定着化を図る。

2. 社会創造アーツファンドにおける目的別ファンド設置推進に向けた改善

社会創造アーツファンドは、特定の目的のために寄付を促す仕組みとして、寄付者の意向に沿った活動へ助成をするファンドの設置が可能だが、利用の多くは、寄付を集める文化芸術を実施する活動者による利用(当ファンドで運用する助成認定制度の利用)となっている。当ファンドで目的別ファンドを設置し、助成を行った SOMPO アート・ファンド(2016 年～2021 年)や、現在運営中の The Okura Tokyo Cultural Fund(2017 年～)などの事例を踏まえ、企業の意向に添う、助成による芸術文化支援を簡易に実現する企業のメセナプログラムとして、企業によるファンド活用を促進していく。そのための紹介ツールの充実を図る。

【広報】

■ 目 的

協議会各事業の取り組み、および会員各社団体のメセナ情報等を広く発信し、「企業メセナ」の周知と多様な価値の見える化、協議会のプレゼンス向上に寄与する。メセナ全般の情報を広く収集し、メセナの情報発信、価値創造につなげる。

■ 事業内容

1. 国内外に向けた企業メセナ・協議会活動に関する情報発信

- ・ プレスリリース配信(年間 10 本程度)、メールニュース(月 1 回、不定期)
- ・ 協議会ウェブサイト(日英)の管理・運営、コンテンツ制作
メセナのイベントカレンダー「アート&カルチャー」の管理・運営とそれによる協議会会員および「This is MECENAT」認定活動のメセナイベント情報の紹介
「メセナライター制度」の運営。外部ライターによるメセナの現場および協議会主催イベントの取材レポートによる情報発信
公式 SNS(Facebook、X(旧 Twitter)、Instagram)の運用

2. 協議会発行物の制作・管理

- ・ 『メセナアワード』パンフレットをはじめ、協議会印刷物の制作管理

3. 情報集配

- ・ 協議会関係者および事業に関することや企業の社会貢献やメセナ全般に関すること、文化政策や文化の動向などの情報収集・共有・活用およびアーカイブ

4. 問合せ窓口

- ・ 各種問合せ対応

■ 課 題

1. ホームページおよびアート&カルチャー運用の見直し、SNS 活用強化
2. 会員各社団体、とくに地方会員企業、および地域メセナに関する情報発信
3. メディアリレーションの強化

■ 重点施策

1. 各事業間の連携と協働

引き続き各事業と連携し、それぞれの業務強化につなげる。また各事業担当者とともに協

働して発信強化を図る。

2. ホームページ運用の見直しと SNS 活用強化

全面リニューアルから 6 年、最後の改修から 3 年経過し、当初の運用の見直しの時期を見直しすることによって、より見やすく、アクセスしやすく改善を図る。あわせて SNS の運用を見直し、活用方法を検討し、発信強化につなげる。

3. 定期的なアクセス解析の実施

HP のアクセス数をもとに年 3 回(1-6 月、7-9 月、10-12 月)にアクセス解析と振り返りを行い、ウェブサイトや SNS の利用改善を検討しながら各事業へのフィードバックを行い、効果的な運用の最適化を図りながら戦略的広報計画につなげる。

4. アート&カルチャーの周知および利用の定着化と拡大

会員をはじめ「This is MECENAT」当年度認定活動へ引き続き積極的に声がけをし、アート&カルチャー利用の定着化を図る。それにより掲載数を増やし、さらなるサイトのプレゼンス向上を図る。

5. 企業メセナ訪問記など制作コンテンツのアクセス向上

メセナライターが取材・執筆したレポートにより制作した記事をより多くの方々にお読みいただくため、SNS を活用した発信に取り組む。

6. メディアおよび会員、協議会関係機関・団体などとのコミュニケーションの活性化

引き続き広報業務を通してメディアや会員とのコミュニケーションを図り、協議会の活動の周知・理解に寄与する。

芸術・文化を始め関係機関・団体などとの関係性を構築し、プラットフォームとしての機能強化に努める。

Ⅲ. 年間スケジュール

月	事業	組織運営
1 月	■メセナセミナー(1/30) @御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター ホール East ◆助成相談日開催	
2 月	◆助成相談日開催	◎第1回運営企画委員会(2/6) @駐健保会館 ●第29回通常理事会(2/19) @駐健保会館
3 月	■Mecenat Report 2024 発行 ★TIM(This is MECENAT)2025 募集開始 ★認定顕彰部会 ◆助成認定制度&社会創造アーツファンド審査・選考委員会／助成相談日開催	●第14回定時社員総会・ 第51臨時理事会(3/5) @御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター
4 月	■メセナアソシエイト第11期レポート公開 ■メセナアソシエイト第12期募集開始 ■メセナライター第11期募集開始 ◆助成相談日開催	
5 月	■調査報告会 ★TIM(This is MECENAT)／メセナアワード応募〆切 ◇会員ネットワーク勉強会(予) ◆助成相談日開催	
6 月	★TIM(This is MECENAT)審査会 ◆助成認定制度&社会創造アーツファンド審査・選考委員会／助成相談日開催	
7 月	■調査アンケート開始 ◆助成相談日開催	◎第2回運営企画委員会
8 月	■調査アンケート〆切 ◇新入会員1stミーティング(予) ◆助成相談日開催	
9 月	★メセナアワード選考会、受賞活動決定 ◆助成認定制度&社会創造アーツファンド審査・選考委員会／助成相談日開催	
10 月	★メセナアワード受賞活動発表 ◆助成相談日開催	
11 月	■調査研究部会 ★メセナアワード2025贈呈式 ★「メセナアワード2025」発行 ◆助成相談日開催	◎第3回運営企画委員会
12 月	■メセナセミナー(予) ★認定顕彰部会 ◆助成認定制度&社会創造アーツファンド選考・審査委員会／助成相談日開催	●第30回通常理事会